

**令和6年度 第1回川崎市社会教育委員会  
有馬・野川生涯学習支援施設専門部会会議録（要旨）**

日 時 令和6年7月29日(月) 10:00～12:00

会 場 有馬・野川生涯学習支援施設 2階 グループ室

出席者 委 員 本田 明子（川崎市立有馬小学校 校長）

加賀 勉（川崎市立有馬中学校 校長）

森 敬起（西野川町内会 会長）

津田 知充（宮前第一地区社会福祉協議会 会長）

鴨志田 由美（市民委員）

山本 啓子（市民委員）

生駒 みを（菅生中学校区地域教育会議 副議長）

指定管理者 本田館長（アクティオ株式会社）三枝（アクティオ株式会社）

事務局 宮前区役所生涯学習支援課（宮前市民館）大木課長(館長)、徳原係長、  
加古

欠席者 委 員 小倉 敬子（公益財団法人かわさき市民活動センター 理事）

会議の成立 （委員8名中7名出席）

会議の公開・傍聴人 あり 2名

次 第

1 あいさつ（市民館館長）

2 委嘱状伝達

3 委員・職員紹介

4 資料確認等

5 川崎市社会教育委員会「有馬・野川生涯学習支援施設専門部会」について

6 正副部会長の互選

7 報告事項

（1）令和5年度管理運営業務報告について

（2）令和5年度利用実績・事業・収支報告について

（3）令和6年度事業計画について

（4）その他

ア 次回の開催日程について

イ その他

配付資料

資料1 川崎市社会教育委員会「有馬・野川生涯学習支援施設専門部会」について

資料2 令和6年度第1回川崎市有馬・野川生涯学習支援施設専門部会資料

（その他）

- ・アリーノニュース 4月号・5月号・6月号・7月号
- ・としょだより 春・夏合併号
- ・令和5年度活動報告書（教育文化会館・市民館）

## 開 会

- 1 あいさつ（宮前市民館館長）
- 2 委嘱状伝達
- 3 委員及び職員紹介
- 4 資料確認等
- 5 川崎市社会教育委員会議「有馬・野川生涯学習支援施設専門部会」について  
大木館長が資料1を用いて概要について説明。
- 6 正副部会長の互選  
川崎市社会教育委員会議規則第6条第4項に基づいて、部会長に小倉敬子委員、副部会長に生駒みを委員が全員一致により互選された。

## 議 事

- （1）令和5年度管理運営業務報告について  
本田館長が資料2－①を用いて説明。
- （2）令和5年度利用実績・事業・収支報告について  
本田館長が資料2－②～⑥を用いて説明。  
（質疑応答）

### 津田委員

昨年度はまだコロナ禍の影響があった中で、前向きで前進していると思う。特に資料2－②の野川小学校を拠点としたアウトリーチ事業はとても良い。

### 本田館長

ありがとうございます。

### 生駒副部会長

野川小学校で行われたアウトリーチ事業はコンサートということだが、具体的にどのような内容であったのか。また参加者の感想はどうだったか教えて欲しい。

### 本田館長

音楽コンサート「音のヨガ」を野川小学校で開催した。普段アリーノでヨガの講師をしている方にお越し、4人でインドの楽器を演奏した。参加者はマットに横になったり椅子に座ったりと好きなスタイルで聴いてもらった。参加者の年齢は幅広く、アンケートでは楽しかった、癒された、またぜひ開催して欲しいといった声が多かった。

### 生駒副部会長

資料2－② 3ページに学習支援事業の協力とあるが、何の科目を行っているのか。どこかの依頼で部屋を貸しているだけなのか。

### 本田館長

健康福祉局生活保護・自立支援室の依頼で部屋を貸している。時間は18時から20

時、遅い時は 21 時頃まで。主に小学生が参加している。

生駒副部長

自分自身も学習支援に携わっているので、学校ごとに支援するだけではなくアリーノのような公的な施設で行うのもいいことだと思う。

加賀委員

資料 2－④ 令和 5 年度 部屋別利用実績報告書について、有料施設の個別の利用率の目標値はあるのか。また、利用料の減免制度はあるのか。

本田館長

減免制度はある。

大木館長

所管課から補足をすると、資料 2－④の裏面に有料貸室利用率合計は 53.4%となっており、資料 2－③ 令和 5 年度 利用実績報告書によると有料室の利用率年間目標は 60%となっている。各部屋の細かい設定があるわけではないが、集会室の単価が高いので、その利用率が上がると全体の値が上がってくるため、アリーノと市民館で連携をしながら利用促進に努めている。全体として有料室は 60%、無料室は 70%の利用を目指している。

加賀委員

集会室はまだ空きがあり利用できるという認識でよいか。

本田館長

そのとおりである。

生駒副部長

集会室の利用は卓球に限られているのか。

大木館長

卓球だけではなくイベント等にも利用されている。予約をしたいというタイミングでいつも空いているわけではないが、キャンセルのタイミングによっては埋まらないままになってしまう。利用者に対して利用促進につながるようにホームページ等で周知を行っていきたいと考えている。

### (3) 令和 6 年度事業計画について

本田館長が資料 2－⑦～⑨を用いて説明。

(質疑応答)

鴨志田委員

質問と要望を交えお伝えしたい。資料 2－②〔8〕「まとめ」と今後の取組で述べていた、多世代に向けた新規事業の展開を図り、新規登録団体の獲得も目指していきたい、ということについてであるが、市民活動支援コーナー運営委員という立場でも同様に切実に感じている。登録団体の高齢化が進み、世代交代がなかなか進まない。登録団体には印刷代の減免があるので減免目的の団体も多く、活発に活動をしている団体は限

られている。講座などに参加した人が自分達で活動を立ち上げ、グループ化して登録団体になった例があるのか、もしくはそのことを見込んだ計画を立てているのかあれば教えて欲しい。

本田館長

アリーノとしては、まず半年間は協力団体にチラシ作りや広報、進め方について協力し、半年ほどで軌道に乗った後は団体に運営をしてもらい、1年後には自分達で活動できるようにするという一部始めている。若い人向けの講座もあるので、そういった所に協力し、登録団体を増やしていくということを新しい事業として考えている。

鴨志田委員

イベントに参加はしても運営に関わることはハードルが高い。登録団体が減っているので市民活動支援コーナー運営委員会の委員の成り手もなかなかおらず、同じ人が長年委員になっているという現状も皆で見直していく必要がある。さらには、アリーノの施設の中に赤ちゃん連れの母親が集まることができるフリースペースがあるといいのではないか。宮崎こども文化センターで外遊びの活動をしているが、そこは赤ちゃん連れの母親でにぎわっている。そういった元から人が集う場所でイベントを行うと参加人数が多くなる。赤ちゃん連れの母親が参加できるイベントは来年度の計画にないので、気軽に立ち寄り、情報交換できるようなフリースペースがあるといい。

本田館長

1階の児童室で毎週2回お話を開催している。

鴨志田委員

児童室は自習室と距離が近く、わらべ歌などは勉強の妨げになると言われてしまったこともあるため、やはりフリースペースがあるといい。そこから母親達が主体的に活動を進めてくれることが理想の形である。

生駒副委員長

母親達が自然に集まり、話をする中で人と繋がっていくスペースが必要ではないか。友達がいない、地域と繋がりが無い若い母親もいるので子どもが小さいうちから親が繋がることができる場所づくりが大事である。

鴨志田委員

運営委員会でも話をしていこうと思っているが、シニアのおしゃべりサロンのそばに赤ちゃんがいるスペースがあれば、多世代交流に繋がっていくきっかけにもなる。

山本委員

乳幼児の母親は育休中の人が多く、育休が明けたら来なくなってしまう場合もあるが、やはり場所と人を求めている。光熱費等の問題もあり公共施設を利用することも多い。特に外国から来ている親子は交流と人を求めていることを実感したことがある。宮前区は保健所の健診に行くと「とことこ」などの資料があり、それを見たり、保健所から紹介されることもあるが、アリーノはそこに掲載されているのか。掲載されるといい。

大木館長

「とことこ」とは地域ケア推進課が作成している子育て情報誌であるが、アリーノも既に掲載されている。

津田委員

何か求めている人は区役所に行くので、区役所で紹介ができる体制をつくらなければならない。例えば、退職後にボランティアをしたい希望あった場合は区役所に相談に行ったと聞いた。

大木館長

以前の経験から言うと、そのような前向きな相談をする区民が一定数いるので、要望に合わせて具体的な紹介をするようにしている。アリーノを紹介するということも行っている。

#### (4) その他（次回の開催日程について）

第2回専門部会は、11月上旬から中旬に複数の候補日を設定し、後日欠席者の都合を踏まえて決定することになった。→11月1日（金）に開催することになった。